

# 1F



## 展示室1

「大名土屋家の文化」コーナーとして、土浦藩土屋家の刀剣・茶道具などを展示しています。秋には、国宝・重要文化財の刀剣を公開します。



## 展示室2

特別展・テーマ展などを開催します。特別展等の開催期間外は、展示室1とともに「大名土屋家の文化」を紹介しています。

## エントランス

大きな花火筒、土浦の船大工が製作した高瀬船の模型、映像展示などをご覧ください。



## 屋外展示

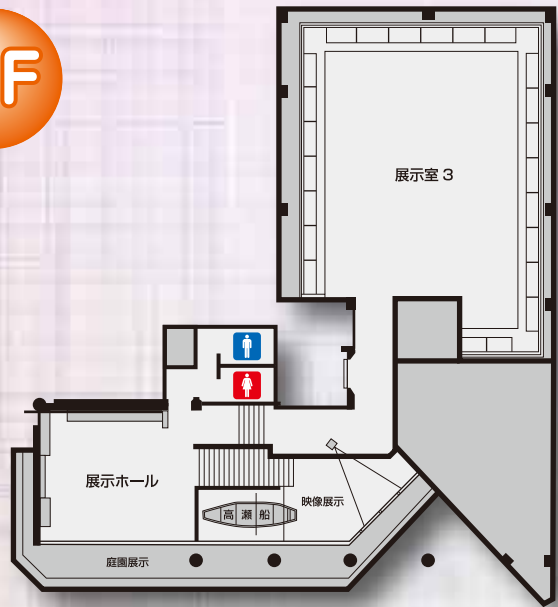
博物館屋外スペースには、道標（市指定文化財）や土浦城櫓門礎石を、2階ベランダには庭園展示を設置しています。

## 展示ホール

昔の道具にふれたり、歴史クイズを楽しんだりする体験型展示スペースです。はたおり体験講座も開催されます。また、情報ライブラリーや参考図書を利用して調べ学習ができます。



# 2F



## 展示室3

総合テーマ「霞ヶ浦に育まれた人々の暮らし」のもと、メッセージ展示と実物資料展示で構成しています。展示品を随時入れ替え、訪れるたびに新しい資料との出会いがあるよう心がけ、特別展などの展覧会も開催します。展示替えは、季節ごとに年4回行います。



## メッセージ展示

短い文と図表・映像・模型などで構成されるコーナーです。各時代の特徴を独自の視点で表現したもので、「霞ヶ浦に育まれた人々の暮らし」をテーマに描く地域のあゆみです。

## 実物資料展示

実物資料を展示し、じっくりと鑑賞していただくコーナーです。新しい収集資料や最新の研究成果をもとにして、展示品の入れ替えを行います。

# 資料のご紹介

資料は、季節ごとに展示替えをしながら紹介をしており、展示されていない期間があります。あらかじめご了承ください。

## 土浦藩土屋家の文化

博物館では、国宝1口、重要文化財4口、重要美術品6口を含む土浦藩土屋家の刀剣84口を所蔵しています。土屋家刀剣の主なものは、2代藩主政直が所有していたもので、そのなかには將軍家から下賜されたものや、他の大名から贈られたものも見受けられます。政直の治世において集まった数多くの名刀は、土浦藩9万5千石のシンボルであり、家宝として歴代藩主によって大切に守られてきました。明治維新後に大名の家宝の多くは散逸しますが、土屋家刀剣は一括して伝世されてきた点でも貴重なものです（展示品を入れ替えながら紹介します。国宝・重要文化財などの展示は9～10月ごろを予定）。

	□ 国宝	□ 重要文化財	□ 重要美術品						
	銘文		種別	国	時代				
1	筑州住行弘	観応元年八月日	短刀	筑前	南北朝時代(1350年)				
2	國光(新藤五)		短刀	相模	鎌倉時代末期				
3	信房作		太刀	備前	鎌倉時代初期				
4	守家造		太刀	備前	鎌倉時代				
5	恒次		太刀	備中	鎌倉時代初期				
6	無銘(来國光)		刀	山城	鎌倉時代末期				
7	景安		太刀	備前	鎌倉時代初期				
8	備前國住人景安作		太刀	備前	鎌倉時代初期				
9	(金象嵌銘)長義磨上本阿(花押)		刀	備前	南北朝時代				
10	無銘(貞次)		刀	備中	南北朝時代				
11	無銘(弘行)		刀	筑前	南北朝時代				



国宝短刀



国宝短刀の拵

土浦藩土屋家初代数直と2代政直は、茶の湯の愛好家と目された大名でした。土屋家が「土屋蔵帳」として知られる数多くの茶道具を所蔵していたことは、古美術の世界ではよく知られています。



茶入 塩屋

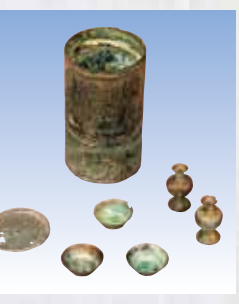
## 根鹿北遺跡出土瓦塔・瓦堂

土浦市今泉では、平安時代（9世紀）の仏教施設の建物跡（仏堂）が確認されています。出土した資料から、仏堂には瓦質の塔・堂が安置されていたと推測されます。当時の寺院建築や他の出土例などを参考に、この瓦塔・瓦堂を復元しました。



## 東城寺経塚の経筒

土浦市東城寺の東城寺裏山では、平安時代につくられた経塚が12基確認されています。経塚からは、この地方に勢力をもった平致幹が、12世紀に埋納した経筒が出土しました。古代の信仰、埋納者や年代がわかる点でも貴重な資料です（複製品）。



## 土浦藩士関係資料

土浦藩の砲術指南を勤めた関家、地理学者（蘭学者）であった山村才助、お抱え絵師であった岡部洞水など、多彩な藩士たちの姿を様々な資料から紹介しています。また、彼らの足跡を映像でご覧いただけます。



## 大輿地球儀（傘式地球儀）

町人学者沼尻墨僊による地球儀で、竹骨の上に和紙で刷った地図を貼ってつくられています。傘のように折りたためることから、傘式地球儀の名があります。



## 高瀬船模型

江戸時代から明治時代にかけて、霞ヶ浦の水運で活躍した高瀬船の模型がエントランスホールで皆様をお待ちしています。土浦の船大工の手による作品です。江戸時代、土浦からは米・醤油・薪炭などが大都市江戸へと運ばれました。



## 青い目の人形

昭和2（1927）年に日米友好の証として、日本の小学校などに贈られた青い目の人形の一体。太平洋戦争中に「敵国人形」として、多くの人形が焼かれたり壊されたりしましたが、土浦幼稚園の青い目の人形は大切に保管されていました。

